

企業ニュース 昭和電工

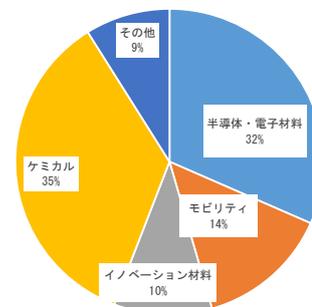
(東証プライム:4004) <https://www.sdk.co.jp>

作成者:兵藤三郎

国内大手機能性化学品メーカー

1939年に日本電気工業と昭和肥料の合併により設立。電気化学工業から様々な分野に事業領域を広げてきた機能性化学品メーカー。2020年に日立化成(現・昭和電工マテリアルズ:SDMC)を買収し現有事業とのシナジーを追求する一方、事業譲渡や上場子会社の株式譲渡など、事業の取捨選択を進めてきた。22.12期より右図に示す開示セグメントに変更、半導体・電子材料とモビリティをコア成長事業として位置付け注力していく。統合効果もあり、半導体材料では複数の高い競争力を持つ製品を有している。同事業の売上高は半導体市場成長に加え半導体の高機能化などによる材料使用量の増加で、30.12期まで10%を超える年平均成長を達成する見通し。モビリティではCASE進展に伴う各ニーズを取り込むことで成長を図る方針。

◇22.12期会社計画売上高構成比



(出所)昭和電工資料よりCAM作成

22.12期、継続事業ベースでは増収増益の計画

21.12期の連結業績は売上高が1兆4,196億円、前期比46%増、営業利益が872億円、前期194億円の営業赤字から黒字転換(同1,066億円の増益)。SDMCの通年寄与(20.12期は7-12月分が連結)や半導体関連製品が好調に推移したことで大幅な増収増益となった。継続事業ベース(20.12期1-6月分のSDMCを追加、事業譲渡分を除いた参考値)でも増収増益となった。営業利益面では数量増に加え、黒鉛電極の低価法適用に伴う戻り益、原料ナフサ価格上昇に伴う受け払い差なども寄与した。半導体供給不足に伴う自動車生産の減速によりモビリティ部材の利益は8月に修正した見込みを下振れたが、全体では22億円上振れて着地した。

22.12期連結業績の会社計画は、売上高が1兆3,500億円、前期比5%減、営業利益が840億円、同4%減。ただし、事業譲渡影響(昭光通商非連結化)を除いたベースでは同907億円(7%)増収、同103億円(14%)営業増益の計画。石油化学で4年に1度の定期修繕影響(約50億円の減益要因)を見込み、原料ナフサの受け払い差(前期約90億円)や黒鉛電極の戻り益がはく落する前提。

[株価動向・投資判断]

両コア成長事業の伸長により中期的な業績拡大が期待できる銘柄として評価したい。SDMCの統合進捗・シナジー創出にも期待したい。

<4004 昭電工 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	百万円(伸び率)	円	円
20.12	973,700(7)▲	19,449(-)▲	43,971(-)▲	76,304(-)▲	523.1	65.00
21.12	1,419,635(46)	87,198(-)	86,861(-)	12,094(-)▲	77.4	65.00
22.12 予	1,350,000(▲5)	84,000(▲4)	79,000(▲9)	27,000(-)	149.1	65.00



[主要株価指標] (売買単位:100株)	
株価(2022/4/1)	2,370 円
年初来高値(高値日)	2,724 円(22/1/13)
同 安値(安値日)	1,807 円(22/3/9)
予想P E R(22.12予)	15.9 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,838.5 円
P B R	0.83 倍
予想配当利回り	2.74 %
(1株当たり配当金65.00円)	
R O E(21.12)	▲ 2.6 %
発行済み株式数	18,490 万株